第63号
2025.10
安心のオンライン医療通訳

medi-way 医療通訳だより

Medi-Way 医療通訳者紹介　Vol.32　　中国語担当　Tさん

◆なぜ医療通訳者になった？

元々は通訳案内士としてビジネス通訳をしていましたが、医療ツーリズムの健康診断の通訳をしたことがきっかけです。日本の医療への信頼が厚く、医療技術の高さに期待を寄せている外国の方が多いことを知りました。2014年に医療通訳士養成講座・研修を受講する機会を得て、医療専門の通訳を志しました。とても難しい分野ですが、医療通訳を必要としている方がたくさんいることに気付き、患者様と医療従事者を繋ぐ役割にやりがいを感じています。

◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

一つに絞ることは難しいですが、やはり医療通訳を利用された患者様から「聞きたいことがやっと聞けた」「伝えたかった辛い症状や気持ちを伝えることができた」「自分の病状が初めて理解できた」と喜びのお声をいただくことです。また医療従事者からは「正確な患者情報が聞けた」「病状や治療について詳しく正確に伝えることができて助かった」などのお言葉をいただいた時に、人の役に立っていると思うことができ、頑張る励みにもなっています。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

医療従事者の方と患者さまの間で円滑なコミュニケーションができるように、自分が実際に通訳したビデオなどを見直して、医療の基礎知識や専門用語、日本語の表現や言葉の使い方等について毎日振り返り、練習を続ける努力をしています。まだまだ不足していると思うところをしっかり把握して、改善を心がけることが大切だと思っています。

「海外の救急車事情と日本での経験」

スペイン語通訳士の、昨年の体験から話は始まります。息子が体操教室で脱臼し、救急車を呼ぶべきか迷いました。泣き叫ぶ姿に動揺しながらも、救急安心センター（#7119）に相談し、指示を受けて対応しました。この経験から、外国人居住者や旅行者も緊急時に救急車を呼んでよいのか、手順が分からず戸惑うことが多いのではと感じました。

海外では救急医療体制に国ごとの特徴があります。中国の都市部では医師が同乗して安心ですが、料金は先払い制。ベトナムでは有料のため、家族が自力で病院へ運ぶことが一般的です。ペルーでは交通渋滞や体制の不備があり、複数の民間会社に連絡して最も早く来る救急車を選ぶ必要があります。一方、日本では救急車の無料利用が原則ですが、軽症でも呼ぶケースが増え、「タクシー化」が問題視されています。こうした状況は本当に救急車が必要な重症患者への対応を遅らせる要因にもなります。

国や文化の違いを知ることは、緊急時の正しい判断にもつながります。医療通訳士として、言葉だけでなく、制度や価値観の背景を理解し、患者と医療者の間をつなぐことの重要性を改めて実感した出来事でした。

今月のトピックス

「大阪・関西万博に見る“未来の健康”と国際交流」

半年間にわたり開催された大阪・関西万博が閉幕しました。当社で担当した大型映像システムも全体を盛り上げる一助になったのではないでしょうか。さて、会場を訪れた通訳士たちは、それぞれの目線で未来を体感したと話します。

大阪ヘルスパビリオンでは、自身の健康データから生成された25年後の自分に出会う体験があり、「未来の医療と都市生活」を身近に感じたとの声もありました。また、ペルー館を訪れた通訳士は、息子と共に母国の文化を再発見し、外国にルーツを持つ子どもたちが自分の背景を学ぶ貴重な機会となったと語ります。異なる文化や価値観が交わる場は、健康や幸福を考える上でも大切な「心の交流」の場。医療現場でも、言葉だけではなく文化や想いをつなぐ通訳士の存在が、患者と医療者の架け橋としてますます求められています。万博で得た学びを、国際診療の現場にも活かしていきたいものです。

株式会社 東和エンジニアリング
東和通訳センター　TEL: 06-6292-8568
□東和通訳センター　〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西4-2-27
e-mail：tic@towaeng.co.jp